

(発行所)
全国港湾労働組合連合会
〒144-0052 東京都大田区蒲田5-10-2
日港福会館1F
電話：03-3733-2561
FAX：03-3733-2627
発行人：玉田雅也
定価：30円(組合費を含む)

(毎月1回15日発行・平成7年8月18日)
第三種郵便物認可
2019年1月15日 第310号

全国港湾
NATIONAL FEDERATION OF DOCKWORKERS UNIONS OF JAPAN
(ZENKOKU-KOWAN)



E-Mail: nfduj@zenkoku-kowan.jp

謹賀新年



新年の挨拶

中央執行委員長

糸谷 欽一郎

新年あけましておめでと
うございます。全国港湾に
結集する組合員の皆様、ま
たご家族の皆様それぞれの
本年一年の幸多かれと心よ
りお祈り申し上げます。

年末から年始にかけて、
楽しいお正月を過ごされた
こと存じますが、全国の
港湾は一年三四日稼働体
制の導入により、この期間
に就労された方も数多くお
られることもあり、本当に
ご苦労様でした。

さて、私たち港湾労働者
をめぐる状況は取り扱った
物量こそ緩やかに拡大して
おりますが、料金・運賃は
ここ二三年近く横ばいから
下落傾向にあり、賃金引き
上げはもとより諸労働条件
の改善も一向に進んでおり
ません。

いま、私たちが最も切実
な要求と考えているのが定
年の延長であります。

公的年金の支給年齢繰り
下げや、今後不足すると予
測される労働力の確保に向
け、六五歳までの定年制度
の実現を要求しております
。この要求もいずれば全
産業的に実現されるものと
思われますが、港湾運送事
業においては他産業に先駆
けて早急に働く者の要求に

こたえ、労働環境整備を進
め港湾労働の魅力を高めて
いただきたいものでありま
す。

また、産業別賃金制度の
改定要求について日本港運
協会は、公正取引委員会に
よる独占禁止法の適用と課
徴金支払い命令を懸念して
具体的な回答は一切してお
らず、組合との対決姿勢が
顕著となっております。現在、
全国港湾では公正取引委員
会の公式見解について照会
することとしており、この
問題の最終的な処理を進め
るに結びつけてまいりま
す。

一方、港運業界の最大の
利用者であり理解者ともい
える海運業界においては、
合併、統合、倒産等々が相
次ぎ、ライアンスの組み
替え、集約化の動きが急で
あり港運業界もこれらの事
態の対応に苦慮している
ところと見られます。労使間の協議た
いで解決できる問題ではな
く、労働組合も事業者と同
じ立場に立つだけに海運業
界に対し組合員の雇用と職
域確保が確立できる解決を
目指します。

港湾労働者の雇用確保の
観点から、港頭地域に次々
と建設されている物流倉庫
における作業全般への進出
や、港湾運送に付随する周
辺業務の職域化も求めてい
き、内陸部への港湾貨物の
流出阻止にも取り組ま
す。

その他、ターミナルの機
械合理化や世界的な自動化
ターミナル建設の動きに対
しての対応も重要でありま
す。日本では直ちにこれら
の動きが具体化するとは思
われませんが、流れは確実
に動いておりこの流れが止
まることは考えにくいのも
事実であります。ITF(国
際運輸労働連)でも大きな検
討すべきテーマとして取り
上げられており、日本に於
ける港湾労働運動の今後の
大きな課題となることが懸
念されております。

継続的な協議課題の港運
送料金の認可制への移行
や、港湾労働法の全港・全
職種適用、石綿被災者に対
する国による賠償制度の確
立等の要求も掲げて交渉を
重ね行動を背景にして協議
は行っておりますが、現在
の政権の下では問題解決の
具体的な前進は難航してお
ります。

また、三島川之江港の指
定港化やフレキシブルパッ
クの使用禁止、労働災害企
業補償制度の改定などの要
求についても昨年に引き続
き要求してまいります。
このような要求課題を掲
げて取り組む本年春闘の状
況下において、安倍政権は
五年連続で賃金引き上げを
経済団体に要請しており、
特に本年春闘時に於いては
減税を梃子にして一・五
%の賃上げを要請し、労
働者の可処分所得引き上げ
を実現し、消費拡大により
景気回復の実現を目指して
おります。

私たちがこの政府の目標
と合わせてと港湾労働者の
賃金水準引き上げとして六
%以上を要求していくこと
としております。

また、国民的な諸課題で
ある労働法制の改悪反対、
辺野古新基地建設反対の活
動、日本航空不当解雇撤回
闘争なども継続して取り組
んでまいります。

組合員全員のご理解、ご
支援、ご協力をお願いし、
これらの要求課題の解決と
諸活動の前進を図ることと
いたします。是非とも本年
も全国港湾の強固な団結を
お願いいたします。年頭
に当たってのご挨拶といた
します。

シヤモ樽

亥年は、政
治的に大変動
の年になるか
もしれない。
亥年の政治的
変動について
、面白い現

象がある▼参院選挙は三年
ごと、統一地方選挙は四年
ごとに行われる。この二つ
の政治日程が重なるのが、
十二年に一度の亥年の年。
このタイミングで行われる
参院選は自民党が苦戦する
との説が『亥年現象』だ。
▼ではなぜ、自民党が亥年
になると苦戦を強いられる
のか。それはイノシシ
の祟りではなく、『自民
党の集票は地方議員の頑張
りに左右される。春の統一
地方選で地方議員は力を使
い果たしてしまい、続く夏
の参院選では息切れしてし
まう』という事が理由とさ
れている▼この説の真意は
定かではないが、確かに前
回の亥年にあたる二〇〇七
年に行われた参院選では、
自民党は三十七議席と歴史
的敗退を喫した。その事が
第一次安倍内閣の退陣につ
なかる結果となった。また、
二十四年前の一九九五年の
参院選でも自民党は改選議
席数を上回ったものの四十
六議席にとどまる苦戦を強
いられている▼憲法改悪や
沖縄の辺野古基地移設問
題。さらには森友・加計疑
惑、アベノミクスの破綻な
ど、安倍政権は突っ込みど
ころ満載のポロポロ状態が
実像。イノシシに頼らずと
も退陣に追い込み、晴れや
かな亥年にしたい。